B胃がん35

対象疾患	胃がん	レジメン名	Ram+weekly nab-PTX療法
1コースの期間(休薬期間含む)		28日	
総コース数	制限なし		

Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、8、15
2	ジフェンヒドラミン10 mg	5 T	経口		day 1、15
3	生食100 mL	1 P	点滴静注	30分	day 1、8、15
	デキサメタゾン6.6 mg	1 V			
4	ラムシルマブ(Ram)	8 mg/kg	点滴静注	60分 ※備考欄参照	day 1、15
	生食250 mL	1 P ※備考欄参照			
5	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15
6	アルブミン懸濁型パクリタキセル(nab-PTX)	100 mg/m^2	点滴静注	30分	day 1、8、15
	生食100 mL	1 P ※備考欄参照			
7	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、8、15

血管外漏出リスク分類	Ram:非炎症性　nab-PTX: 壊死性
催吐性リスク分類	レジメン全体:軽度(Ram: 最小度　nab-PTX: 軽度)
インラインフィルターの要不要	Ram投与のため、Rp.3~5までは0.2又は0.22 μmのインラインフィルターを使用したルートからの投与する(制吐剤はインラインフィルターありのルートから投与し、その後Ramを投与する)。nab-PTX投与のため、Rp.1及び6~7はインラインフィルターを使用しないルートから投与する(インラインフィルターなし側からルートキープを行い、このルートからnab-PTXを投与する)。
備考欄	※Ramは、採取量と同量の生食を予め抜き取り、希釈時に本剤と生食の合計が全量250 mLとなるように希釈する。 ※ジフェンヒドラミンは、Ram投与前に内服する。 ※Ramの2回目以降は、初回時に忍容性が良好であれば投与時間を30分まで短縮可能である。 ※nab-PTXは生食にて20 mL/Vで溶解するが、生食の不要な残液は破棄する。